

問1 1948年の第3回国際連合総会において採択された、人種、性別、宗教、政治的意見などに関わらず、すべての人間が享受すべき人権の基準を示した宣言を何とといいますか。（2025年 宮城県公立入試 類似）

1. 世界人権宣言                      2. 国際人権規約                      3. 児童の権利条約                      4. 女子差別撤廃条約

問2 1948年に国連で採択された世界人権宣言の内容を基礎とし、それを条約化して各国に人権の保障を法的に義務づけた、1966年採択の規約を何とというか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 国際人権規約                      2. 国際連合憲章                      3. 世界人権宣言                      4. 平和維持活動

問3 デジタルデバインドが生じる要因の一つとして、機器を所有しているかどうかだけでなく、情報を正しく選択・活用できる能力の差が指摘されています。インターネット上の膨大な情報から必要なものを取捨選択し、適切に扱うことができる能力を何とといいますか。（2023年 長崎公立入試 類似）

1. 情報リテラシー                      2. 知的財産権                      3. ユニバーサルデザイン                      4. プライバシーの権利

問4 若年層においてインターネットの利用率が高い一方で新聞の利用率が極めて低いという、情報化社会におけるメディア利用の現状について、社会的な課題の観点から述べたものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 個人の関心に合わせた情報のみが表示されるインターネットの特性により、自分と異なる意見に触れる機会が減る懸念がある。  
2. インターネットは新聞に比べて情報の拡散速度が遅いため、災害時の緊急情報収集には新聞を優先すべきである。  
3. 全世代でインターネットが普及したことにより、情報の真偽を確かめるメディアリテラシーの重要性は低下している。  
4. 10代の新聞利用率が低いため、若年層向けの情報はすべてラジオ放送を通じて提供することが最も効率的である。

問5 近代の民主政治に影響を与えた思想家のうち、モンテスキューの主張と著書の組み合わせとして適切なものはどれですか。

（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. 『市民政府二論（統治二論）』を著し、政府が国民の信頼に背いた場合の抵抗権を認めた。  
2. 『社会契約論』を著し、人々の合意に基づく「一般意志」に従う政治を主張した。  
3. 『法の精神』を著し、国家権力を立法・行政・司法に分ける必要性を説いた。  
4. 『権利章典』を著し、国王といえども法に従わなければならないという原則を示した。

問6 現代の民主政治において、多数決によって物事を決定する際に「少数意見の尊重」が重視される理由として、最も適切なものはどれですか。（2022年 福島県公立入試 類似）

1. 多数派の意見が常に正しいとは限らず、少数意見の中に優れた内容が含まれている場合があるから。  
2. 少数派の意見を取り入れることで、最終的に全会一致で決定を下さなければならないルールがあるから。  
3. 多数決を行う前には、必ず参加者全員が納得するまで議論を尽くすことが憲法で義務付けられているから。  
4. 少数派が反対し続けた場合、多数決の結果には法的な強制力が認められなくなるから。

問7 兵庫県の伝統的工芸品である播州そろばんの生産現場では、かつては「枠」「ひご」「玉」などの製造工程を別々の職人が担う生産体制が一般的でした。しかし、近年は職人の高齢化や減少により、技術の継承が困難になっています。こうした課題を解決するために取り組まれている、若手職人による技術継承のあり方として最も適切なものを選択してください。（2023年 広島公立入試 類似）

入試 類似）

1. 一人の若手職人が複数の工程を習得することで、職人が減少しても製品全体を完成させられる体制を整える。  
2. すべての製造工程を機械化することで、職人の手作業を排除し、大量生産が可能な体制に移行する。  
3. 分業化された4つの工程を1つに統合し、特別な技術がなくても短時間で製造できる仕組みを作る。  
4. 熟練職人の技術をデータ化し、国内での製造を廃止して海外の安価な労働力にすべて委託する。

問8 社会生活において対立が生じた際、話し合いを通じて合意を目指す過程で重視される考え方のうち、手続きやルールがすべての人に平等に適用され、特定の個人やグループが不当な扱いを受けないように配慮することを何とといいますか。（2018年 徳島公立入試 類似）

試 類似）

1. 限られた時間や資源を有効に使う「効率」  
2. 個人の自由な活動を最大限に認める「自由」  
3. 偏りがなく、手続きや機会が平等である「公正」  
4. 多数派の意見によって物事を決定する「多数決」

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>世界人権宣言</b>	第二次世界大戦における悲惨な人権侵害への反省から、1948年の国際連合総会で採択されました。すべての国と国民が達成すべき共通の「人権保障の基準」としての性質を持っています。これ自体に法的拘束力はありませんが、のちの「国際人権規約」などの条約に大きな影響を与えました。
問2	<b>答え 1</b> <b>国際人権規約</b>	1948年の世界人権宣言は、あくまで各国が達成すべき共通の基準としての「宣言」であり、法的な拘束力を持っていませんでした。そこで、この内容を具体化し、条約として批准国に守ることを義務づけるために1966年に採択されたのが国際連合憲章は国連設立時の基本文書、平和維持活動（PKO）は紛争解決のための活動を指します。
問3	<b>答え 1</b> <b>情報リテラシー</b>	情報社会においては、単にスマートフォンやパソコンなどの端末を持っているだけでなく、情報を適切に読み解き、活用する「情報リテラシー」が重要視されます。この能力の差は、情報の真偽を見極める力や、情報を自己の利益や社会参加に役立てる力の差となり、結果としてデジタルデバイドを深刻化させる原因となります。
問4	<b>答え 1</b> <b>個人の関心に合わせた情報のみが表示されるインターネットの特性により、自分と異なる意見に触れる機会が減る懸念がある。</b>	若年層を中心にインターネットが主な情報源となる中で、アルゴリズムによって自分の興味がある情報ばかりが提供される「フィルターバブル」などの現象が課題となっています。新聞のように一覧性があり、多角的な情報を提示するメディアの利用が減ることで、特定の考え方に偏ったり、社会全体の共通の話題を把握しにくくなったりするリスクが生じるため、多角的に情報を精査するメディアリテラシーが求められます。
問5	<b>答え 3</b> <b>『法の精神』を著し、国家権力を立法・行政・司法に分ける必要性を説いた。</b>	モンテスキューの代表的な著書は『法の精神』であり、その中で三権分立を体系化しました。ロックは『市民政府二論』で抵抗権を、ルソーは『社会契約論』で人民主権の原理を説いており、モンテスキューの三権分立の思想とあわせて、これらは近代市民革命の理論的支柱となりました。
問6	<b>答え 1</b> <b>多数派の意見が常に正しいとは限らず、少数意見の中に優れた内容が含まれている場合があるから。</b>	民主政治の基本は、単に数で押し切るのではなく、議論を通じてより良い結論を導き出すことにあります。多数派の意見が誤っている可能性や、少数派の意見に重要な指摘が含まれている可能性があるため、十分に話し合いを行い、少数意見を可能な限り汲み取ることが、公正な意思決定には不可欠です。
問7	<b>答え 1</b> <b>一人の若手職人が複数の工程を習得することで、職人が減少しても製品全体を完成させられる体制を整える。</b>	播州そろばんなどの伝統産業は、本来、高度な専門技術を要する「分業」によって支えられてきました。しかし、後継者不足が深刻化すると、特定の工程を担う職人がいなくなるだけで製品全体が作れなくなるリスクが生じます。そのため、現在の若手職人は複数の工程を習得する「多工程」の技術習熟を目指し、少ない人数でも伝統の技術を次世代へつなげようとしています。
問8	<b>答え 3</b> <b>偏りがなく、手続きや機会が平等である「公正」</b>	社会的な合意形成においては、特定の人が不利にならないような「公正」の視点が不可欠です。公正には、決定に至るまでの手続きが正しいか（手続きの公正）や、すべての人に同じ条件が与えられているか（機会の平等）といった側面が含まれます。